

鈴亀区域の平成30年度具体的対応方針(案)

区域の概要

- ・2025年の病床数の必要量と2017年度の病床機能報告を比較すると、病床総数は250床過剰となっている。
- ・病床機能別に比較すると、高度急性期機能及び急性期機能で378床過剰である一方、回復期機能については、224床が不足する。
- ・2025年に向け、急性期から回復期への病床機能の転換を進めるとともに、全体的なスケールダウンが必要である。
- ・2つの基幹病院の高度急性期・急性期機能だけで同病床の必要量を上回ることから、高度急性期・急性期のあり方について検討を進めていく必要がある。

2017年病床機能報告(アンケート調査反映後)						
医療機関名	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休養・無回答等	計
鈴鹿中央総合病院	185	275				460
鈴鹿回生病院	111	212	56			379
鈴鹿病院				290		290
亀山市立医療センター		46	46			92
村瀬病院		60	98	60		218
塩川病院		42	15			57
白子ウィメンズホスピタル		29				29
高木病院				79		79
田中病院				79		79
亀山回生病院				76		76
医療法人なわて記念会 鈴木レディースクリニック		19				19
医療法人重幹会 川村外科内科		19				19
宮村産婦人科		16				16

担うべき医療機関としての役割	医療機能ごとの病床数				介護保険施設等に移行(2023年)
	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	
急性期医療や政策医療に関する中心的な役割を担うとともに、地域がん診療連携拠点病院として、がん治療において中心的役割を担う。また、災害拠点病院として災害医療においても中心的役割を担う。 <input checked="" type="checkbox"/> 救急 <input checked="" type="checkbox"/> 小児 <input checked="" type="checkbox"/> 周産期 <input checked="" type="checkbox"/> 災害					
二次救急医療に対応できる中核病院として、急性期機能の充実・強化を図るとともに、回復期機能の確保にも取り組む。また、地域包括ケアシステムの構築に関しても、地域の関係機関と連携し、基幹病院としての役割をはたす。 <input checked="" type="checkbox"/> 救急 <input type="checkbox"/> 小児 <input type="checkbox"/> 周産期 <input checked="" type="checkbox"/> 災害					
重症心身障害者(児)及び筋ジストロフィーを含む神経難病医療に関する拠点病院として、早期診断から長期療養に係る医療を提供する慢性期機能を担う。					
急性期機能を担うとともに、回復期機能の確保に取り組む。また、医療、福祉及び介護の連携体制の構築に向けて、在宅連携システムを支える後方支援病院としての役割をはたす。 <input checked="" type="checkbox"/> 救急 <input type="checkbox"/> 小児 <input type="checkbox"/> 周産期 <input checked="" type="checkbox"/> 災害					
別途、今後の対応方針等について、提出を依頼中。					
産婦人科を標榜し、①専門医療を担って病院の役割を補完する機能、②緊急時に対応する機能を担う。					
肛門外科を標榜し、病院からの早期退院患者の在宅・介護施設への受け渡し機能を担う。					
産婦人科を標榜し、①専門医療を担って病院の役割を補完する機能、②緊急時に対応する機能を担う。					

2017年病床機能報告(アンケート調査反映後)						
医療機関名	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟・無回答等	計
みえ呼吸嚙下リハビリクリニック		14				14
医療法人宮崎産婦人科		10				10
医療法人 平井医院		8				8
尾池整形外科		8				8
しまむら外科内科		4				4
やばせクリニック			19			19
西城外科内科			15			15
むらしま整形外科・リハビリテーション科			2			2
鈴鹿クリニック			1			1
川口整形外科				15		15
計	296	762	252	599	0	1,909

2025年に向けた役割・医療機能ごとの病床数					
担うべき医療機関としての役割	医療機能ごとの病床数				介護保険施設等に移行(2023年)
	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	
内科、呼吸器内科、リハビリテーション科を標榜し、①病院からの早期退院患者の在宅・介護施設への受け渡し機能、②緊急時に対応する機能、③在宅医療の拠点としての機能、④終末期医療を担う機能を担う。					
産婦人科を標榜し、①専門医療を担って病院の役割を補完する機能、②緊急時に対応する機能を担う。					
過去1年間に入院患者を収容していないことから、今後の運用の見通しについて説明いただく予定					
整形外科を標榜し、①専門医療を担って病院の役割を補完する機能、②緊急時に対応する機能を担う。					
消化器内科(胃腸内科)、外科、肛門外科を標榜し、①緊急時に対応する機能、②在宅医療の拠点としての機能を担う機能を担う。					
リハビリテーション科、内科を標榜し、病院からの早期退院患者の在宅・介護施設への受け渡し機能を担う。					
消化器外科(胃腸外科)、外科、内科を標榜し、①病院からの早期退院患者の在宅・介護施設への受け渡し機能、②緊急時に対応する機能、③在宅医療の拠点としての機能、④終末期医療を担う機能を担う。					
整形外科、リハビリテーション科を標榜し、①専門医療を担って病院の役割を補完する機能、②緊急時に対応する機能を担う。					
外科を標榜し、在宅医療の拠点としての機能を担う。					
整形外科、リハビリテーション科を標榜し、①病院からの早期退院患者の在宅・介護施設への受け渡し機能、②緊急時に対応する機能、③在宅医療の拠点としての機能、④終末期医療を担う機能を担う。					
(計)					
2025年の病床数の必要量	151	529	476	503	1,659
2025年の病床数の必要量と2017年病床機能報告との差	145	233	-224	96	250

※なお、この具体的対応方針については、毎年度、地域医療構想調整会議で協議し、とりまとめることとします。

別途、今後の運用見通しについて、提出を依頼中。